

## Grab配車アプリ、日本でも 訪日客の移動スムーズに 【イブニングスクープ】

2019/11/15 18:00 | 日本経済新聞 電子版

シンガポールの配車サービス大手Grabは18日から同社の配車アプリを日本でも使えるようにする。日本交通系の配車アプリ大手ジャパントクシー（東京・千代田）と連携し、ジャパントクシー加盟の車を呼べるようにする。近年東南アジアからの訪日客は増えている。スムーズに移動できる手段が整えば、さらなる訪日客の増加につながる可能性がある。



自国で使っているGrabの配車アプリを日本でも使えるようになる

利用はシンガポールなどでGrabを使っている人向けだ。Grabのアプリのダウンロード数は累計で1億6300万回と東南アジア諸国連合（ASEAN）の総人口の4分の1に達する。同社が日本で配車アプリと提携するのは初めて。ジャパントクシーは国内で7万台のタクシーを配車できる配車アプリ大手だ。

### イブニングスクープ

翌日の朝刊に掲載するホットな独自ニュースやコラムを平日の午後6時ごろに配信します。

東京都、京都府のほか札幌市、名古屋市、沖縄県の5つの地域で始める。シンガポール、マレーシア、フィリピン版のGrab利用者は普段使っているアプリでそれぞれの国の言語や英語でジャパントクシー加盟のタクシーを呼べて運転手に行き先まで伝わる。支払いはネット決済のみ。

日本政府観光局によると2018年の訪日外国人で、シンガポールは前年比8.2%増の43万7300人、マレーシアは6.5%増の46万8300人でいずれも過去最高を更新した。

全国ハイヤー・タクシー連合会（東京・千代田）によると16年度のタクシーやハイヤーによる年間輸送人員は14億5197万人で32億2316万人だった1990年度に比べ半数以下に減った。

人口減少などでタクシー各社にとって増加する訪日需要の取り込みは急務だ。訪日客には不案内の旅行先で自国でのサービスを使える安心感は大きく、訪日客の増加につながる可能性がある。

海外の配車サービスでは米ウーバーテクノロジーズや中国の滴滴出行（ディディ）が日本に進出している。滴滴出行とソフトバンクが共同出資するDiDiモビリティジャパン（東京・港）は中国人旅行客の利用率の高さを生かして急速に規模を拡大している。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.